

私の教育実践 ～子供たちの可能性を信じて～

篠山小中学校組合立篠山小中学校 校長 西平 千恵子

はじめに

「高知県宿毛市愛媛県南宇和郡愛南町篠山小中学校組合立篠山小中学校」の日本一長い名前で有名な本校です。そして、日本で唯一、愛媛と高知の二県のまたがった組合立の学校でもあります。しかし、年々過疎化、少子高齢化が進み、地域の世帯数とともに児童生徒数も減少して、現在では、小学生6名、中学生11名の極小規模校となっています。

そこに令和3年度から3年間の「中国・四国地区へき地教育研究大会（兼愛媛県大会）」の指定を受けました。私の定年退職までのちょうど3年間であり、「これが校長としての最後の仕事だ。」と気合を入れました。特色ある学校づくりとして、へき地教育の実践を中心に少し紹介させていただきます。



1 研究主題

ふるさとを誇りの思い、豊かな心で主体的に活動する児童生徒の育成
～小中9年間で地域と“ともに学び、ともに育つ”篠南の子を目指して～



2 小中合同の交流を生かした実践

(1) 児童生徒主体の「篠南プロジェクト」

小中合同の縦割り班を生かした主体的な実践が行えるよう時程を工夫し、カリキュラムを編成した。主に中学生が中心に行っていた活動を、小中合同で行い、その時間数を年々増やした。様々なプロジェクトでは、地域の方にも協力していただきながら行っている。企画・提案・交渉・運営を任せることでリーダー性や実践力が身に付いてきた。

一年次テーマ 「篠南を盛り上げるために」	郷土料理づくり 廃油石鹸作り 看板制作 篠南キャラクター・Tシャツ制作 等	3時間
二年次テーマ 「篠南の魅力 伝え隊」	篠南PR動画（歴史・文化・伝統） 篠南パンフレット クリアファイル 等	5時間
三年次テーマ 「Welcome to Sasana」	イベント開催（12月） 2つのファミリー班と教職員チーム	10時間

(2) ファミリー班（縦割り班）を生かした取組

小中合同校舎と職員室が一つである本校の特色から、小中の連携がとりやすいことが挙げられる。そこでファミリー班を大いに活用しようと、委員会活動や稲作活動、合同俳句集会、運動会の応援合戦、スーパー全校遊び等を行っている。中でも稲作活動は、うるち米ともち米に分かれ、収穫祭にそれぞれの米を使ってお世話になった方々をもてなそうと、レシピを考え会食を行っている。その後、文化祭のバザーで収穫した米を販売する。これまでは、販売したら終わりであった売上金を、どう利用したいか、全校児童生徒で考えさせることで、様々なアイデアを出したり、皆の意見をまとめたりする力や、協調性が育っている。また、キャリア教育や金融教育にもつながっている。楽しみながら話し合い、購入したものが、上記のTシャツやクリアファイルなどである。また、篠南パンフレットを、自分たちでは美しく印刷できない、大量印刷が難しいということから業者印刷をお願いしたいという意見が上がり、素晴らしいパンフレットも出来上がり好評である。

(3) 保護者・地域を巻き込んだ「一日防災参観日」

「自分の命は自分で守り切る」「篠南地域の一人の命も落とさない」ために、地域全体で考えようと、毎年6月に「一日防災参観日」を設定して3年間実施した。

まず、公開授業後、参観に来られた方全員で避難訓練を行い、防災対策課の方や消防署の方に講演会や救命救急法の指導をしていただいたり、集会を行ったりした。最後は、引き渡し訓練で一日を終了する。先生方は、公開授業に専念できるよう、集会の計画・進行等は、管理職が行う。児童生徒、保護者、地域がともに話し合う場を設定することで、主体性やコミュニケーション能力、話すスキルに向上が見られ、相手や場に応じた話し方が日常生活にも生かされ始めている。

令和3年度	篠南の現状と備えについて「なまずの学校」「非常持ち出し袋」
令和4年度	避難所運営「炊き出し訓練」
令和5年度	避難所設営「避難所HUG」「非常食試食」「防災資機材組み立て」

(4) 地域の人財を生かした教育活動

学校運営協議会委員を中心に、ゲストティーチャーとして、各教科に参加していただいたり、教育環境づくりに積極的に活動していただいたりしている。運動会や文化祭、プール清掃や監視にまで役割分担の一端を担っていただき、学校行事の円滑な運営がなされている。また、老人会や婦人会、南宇和高校等の協力を得て行う稲作活動。お年寄りによる地域の食材を生かした郷土料理作りや畑、野菜作り等、地域の人財を生かした教育活動を行っている。

そうした地域の協力に対して、子供たちも何かできることはないかと考えていたところ、総合的な学習の時間に調べた伝統芸能の五鹿や花とり踊りの踊り手が不足していることを聞き、「ぜひ私たちが受け継ぎたい」と参加した。中学生は、地域のくつろぎの場である「やまびこキッチン」に休日に率先して手伝うようになった。地域の一員として自分に何ができるのか、篠南の地域のために動こうとする主体性が芽生え始めている。

(5) 考えを広げ、深めるICTの活用

小中学校と変わらぬメンバーにおいて、考えを広げ、深めることに難しさを感じていたところ、同じような悩みを抱えていた一人学級や同規模校の小中学校とオンライン学習を行うことにした。生活科や総合的な学習の時間に、地域性が違う互いのふるさについて、学びを紹介したり、道徳科で多様な意見に触れたりする中で、対話力や豊かな表現力を身に付けている。

おわりに

私の教育実践は、「常にチャレンジ！」です。子供たちの可能性を信じて、これまでとは違った見方・考え方で、したいと思ったことをとにかくやってみる、やらせてみる。これは児童生徒も教職員もです。そのために学び、準備を行うのです。小規模校だから、田舎の学校だから体験できないこともありますが、田舎の学校だからこその良さもあります。現在、この篠南の里と母校である篠山小中学校を自分のふるさととして自慢できる児童生徒が育ちつつあります。そして、いつまでも篠南の伝統を、文化を、自然を守り、受け継いでほしいと思っています。そのためにふるさとの良さ探しをした3年間でした。

きらきらと輝く17名の児童生徒を見に、ぜひ篠南の里を訪れてください。